

小泉製麻グループ
はじまりの話

VOL.
14



グループの新たな事業として、物販事業に取組み、ホームセンター・プリコをオープン。店名はフランス語の「プリコラージュ」から採ったもので、英語の「DIY(Do It Yourself)」と同じ意味を持ちます。昭和48年頃は、DIYという言葉はまだ一般的ではなく日曜大工と呼ばれる時代で、神戸周辺はおろか関西には、ホームセンターと呼ばれる店舗はありませんでした。六甲の地にまだないもの、必要なもの役立つものを創る。そして、その楽しさや便利さを地域の

方々へ提供したいという思いがありました。そして昭和57年に小泉製麻(株)の第一工場跡(現サザンモール六甲B612)を再開発してオープンしたのが、インテリアマート「六甲パインモール」。第一工場は、松材の柱が多数あったことから「パインモール」と名付けられました。オープン初日は、あいにくの雨模様のため客足を心配しましたが、開門10分過ぎには駐車場共に満車、予想に反して大混雑となり赤レンガの建物は、もはや神戸の新名所になる予感がしました。

ドイツにて展示会「FACHPACK2022」に
「バロンボックス® クリーンα」と
「スパウトバッグ」を出展しました。



2022年9月27日(火)～29日(木)にドイツ・ニュルンベルクで開催された展示会「FACHPACK2022」に液体容器「バロンボックス® クリーンα」と「スパウトバッグ」を出展しました。クリーンαの特長であるハイバリア性能(酸化防止)を切り口に、環境意識の高いヨーロッパで販路を切り開くとともに市場動向に関する調査も実施しました。今後も各種商品を海外へ広めていくために展示会出展や視察、オンライン商談会などを計画しています。

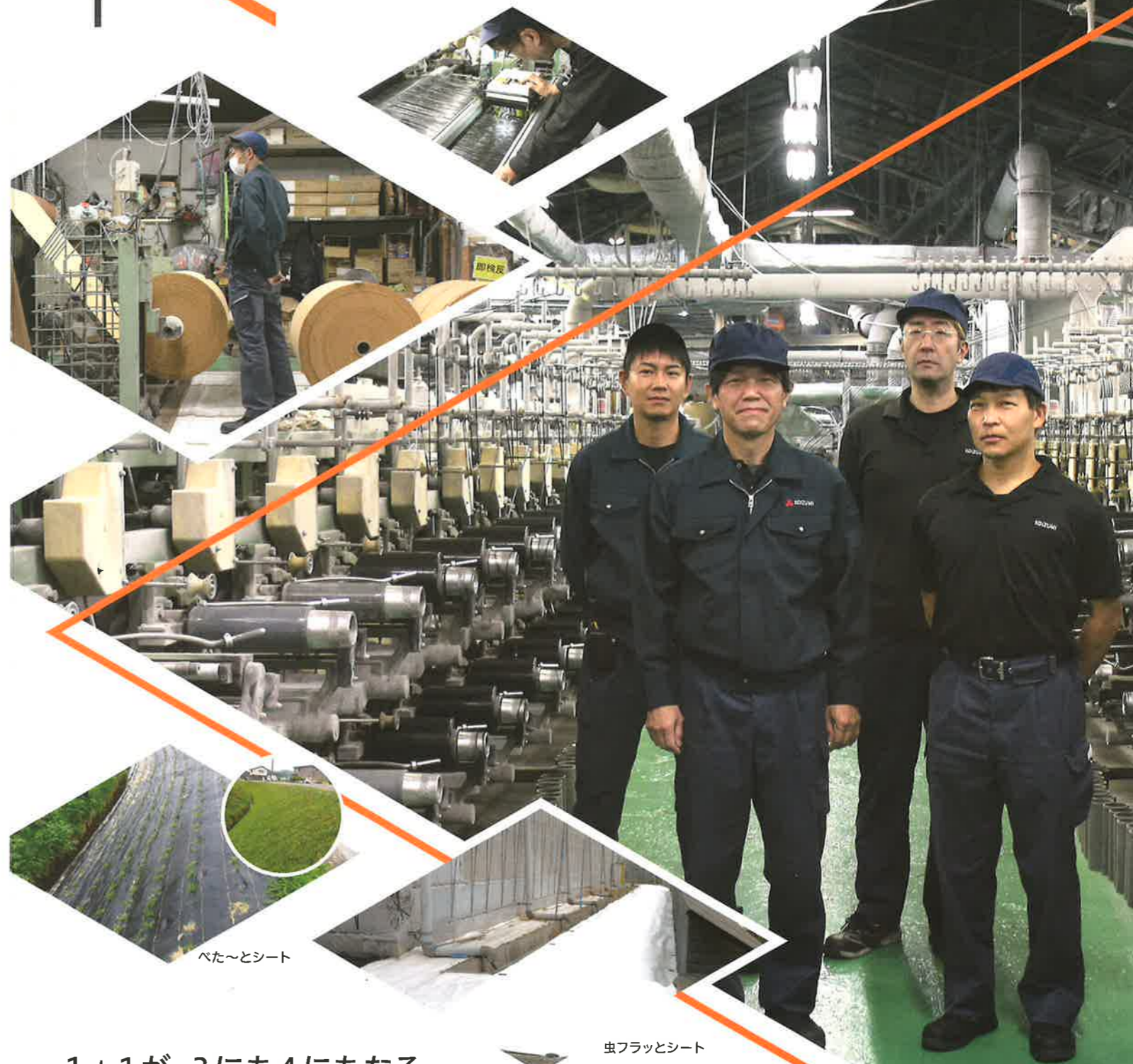
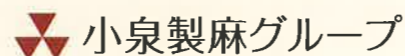


(株)小泉ビジネスソリューションは、2023年4月18日に10周年を迎えます。ひとつの節目ともいえるこの日を迎えることが出来たのは、多くの皆さまに支えられてのことと感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

K TIMES Vol.14 発行元:K TIMES 制作委員会

■株式会社小泉ビジネスソリューション ■小泉製麻株式会社 ■株式会社サザンモール六甲

2022年12月発行
神戸市灘区新在家南町1丁目2番1号 TEL:078-841-4141(代)



1+1が、3にも4にもなる
岸和田工場の結束力

高い技術力をもつ職人たちの個々の力が結束することは優れた商品につながります。技術が集結して生まれた商品、防草シート「ルンルンシート白ピカ」「虫フラットシート」「べた〜とシート」は環境にやさしい商品として開発しました。

岸和田工場を見る



「原料から糸をひく」

岸和田工場では、原糸から整経・織物まで一貫生産を行っています。お客様の声から生まれたニッチな糸の開発、特性のある糸の生産、独自に開発した原料のレシピ作りなど、全工程を自社で行っていることが岸和田工場の最大の強みです。



① 押出
熱熔融してフィルム状に押出す
(インフレ-Tダイ)



② 冷却
冷却しながらチューブ状、フィルム状に成型する
(水冷、空冷)



③ 延伸
フィルムをスリットして、決められた幅、厚みになるよう加熱・延伸することで強度を増す
(ロール、熱板)



④ アニール
熱収縮を安定させるために、熱や機械的応力のできた歪を除去する



⑤ ワインダー
できあがった糸はロール状に巻き取られ、タテ糸やヨコ糸に使用する



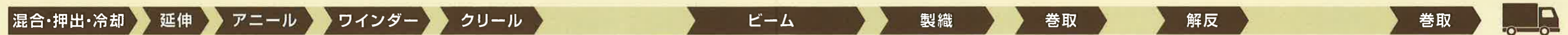
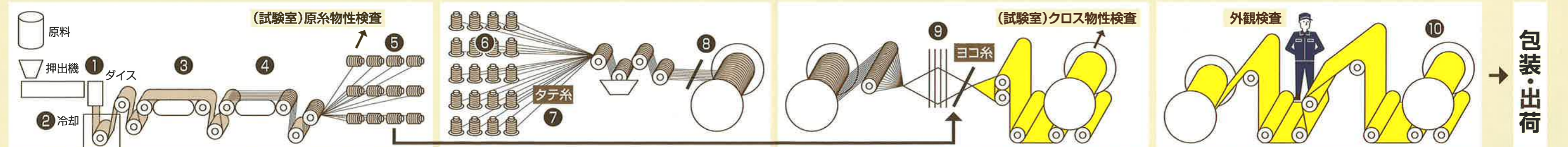
熟練の技!人の手でしか行えない工程
ワインダー、クリールともに、巻かれた糸の交換やセッティングは人の手でしか行えません。激しく回転するワインダーに次の糸を巻き付ける作業、約2000本の糸を1本1本手で結ぶ作業を敏速に行うには、熟練が必要です。

押出工程

整経工程

製織工程

検反工程



働きやすい職場環境のために【5S】遂行

従業員との良好なコミュニケーションは、5Sの定着につながります。従業員から毎月20日に5S改善提案が提出され職場環境の改善の議題となっています。5Sをすることで相乗的に、従業員同士のコミュニケーションも良くなり、品質改善にも役立っています。



工場内に設置された「改善提案箱」



⑥ クリール
約2000本の糸を手作業で置いていく



⑦ タテ糸
クリールとビームの糸の道筋



⑧ ビーム
タテ糸を空ビームに巻く



⑨ 製織
ビームに巻かれたタテ糸にヨコ糸を織り込む



⑩ 巻取

品質向上と生産性・安全性アップを目標に、作業者の声が届く職場づくりを目指す